

連合駿台会報

No.319 平成27年1月15日発行
発行・編集 連合駿台会

発行人 広報委員長・齋藤柳光
編集人 事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052千代田区神田小川町三十二
明治大学「紫紺館」内
電話 (〇三) 三二九六一四七七
印刷 有限会社 美創

大学の発展を支える

連合駿台会
会長
山口政廣



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当会の運営・活動に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年12月、平成24年12月の第二次安倍内閣発足から二年、唐突の感じが否めない、何を問う解散なのか、大義名分が見当たらないと言われた衆議院選挙が行われました。

そのためか、投票率は過去最低であった前回の59・32%より更に大幅に下回り、52・66%となりました。有権者数一億四百二十五万人の、ほぼ二人に一人が投票に行かず、選挙の有効性が問われかねない深刻な事態となったことは、誠に残念でした。

しかし、与党が衆参両院で絶対多数を占め、かつ、目立った党内抗争のない政治状況となった今こそ、諸政策課題に果敢に取り組み、改善するチャンスでもあります。特に、世界で最悪レベルの財政再建のため、社会保障制度の再構築に踏み込み、財政への不安を払拭する政策促進を期待したいものです。

また、12月25日付日経新聞(大学篇)に、主要百二十九校の平成25年度決算の分析で58%の大学が損益悪化したとありました。

主な私立大の中で、母校明治は、帰属収入額五百二十七億円で10位のランクを確保しながら、帰属収支差額では18億円の赤字で、残念ながら43位でした。

人口減・受験者数減で、経営環境が確実

に厳しくなる中、いかに経営を安定させるかが問われています。

幸い母校では、中期計画(14~19年度)が承認され、グローバル化に対応した教育・研究の充実や財政改善等の実行段階に入っており、経営基盤の確立に全力で取り組んでいます。

一方、私立大学経営を支える財源のひとつに寄付金があり、授業料収入や交付金の減少を補う収入源を確保するため、各大学は今まで以上に、卒業生や企業へ支援の働きかけを強めております。

「明治大学広報」新年号に、「募金特別号」が発行されます。維持員(謝意を込めた称号)についても触れられる予定ですので、具体的な大学支援として、皆様のご理解を頂ければ幸いです。

当会は、寄付ばかりではなく、母校が社会から高い評価が得られるよう、様々な面で、協調・協力したいと、想いを新たにしております。

皆様のご理解とご支援をお願いし、ご健勝ご多幸を祈念申し上げます。



前へ、世界へ、踏み出す一年に

二〇一五年を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。連合駿台会の皆様には、日ごろから、明治大学へのご支援、ご協力を賜わり、心から御礼申し上げます。

さて、現在、日本社会は、グローバル化、少子化、情報化の影響を受け、労働市場や産業構造が流動化し、大きな変革期を迎えています。個人の価値観や働き方が多様化し、将来の見通しが不確かないま、高等教育機関としての大学が果たすべき役割は大きく変化しています。

そのような中、明治大学は、昨年九月に、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業に採択されました。そして、先端数理科学インスティテュートの共同利用・共同研究拠点の認定や女性研究者研究活動支援事業（一般型）採択と、本学の取組が高い評価をいただいたことを、嬉しく受け止めています。しかし、同時に社会の期待に、大きな責任も感じています。二〇一一年に策定した学校法人明治大学長期ビジョンで、本学は「世界へ―国際人の育成と交流のための拠点 世

界で活躍する強く輝く『個』を育てる教育研究の実現」を十年後の明治大学の姿として掲げました。二〇一八年以降、日本の十八歳人口の減少は加速化し、二〇二〇年代半ばには百万人を割り込む予測が立てられるなど、大学淘汰の時代を迎えます。本学は、教育・研究の一層の質の向上を図り、グローバル戦略を、さらなるスピード感をもって、推進します。

昨年、本学は、長期ビジョンに基づく、学校法人明治大学中期計画（第1期）を策定し、「教育、研究、社会連携・社会貢献、国際連携、施設設備整備計画、財務戦略、組織・運営体制、明治高等学校・中学校」の八分野で基本方針と具体的な施策を立てました。そして、中期計画を毎年度の事業計画と予算編成に反映させることで、中長期計画と単年度計画をリンクさせ、絶え間なく事業の見直しを図ります。変化の激しい時代に生き残るため、まず、帰属収支差額の改善に努め、強固な財務基盤を築きます。そして、事業規模の適正化、制度改革、柔軟でしなやか

学校法人明治大学
理事長
日高憲三



な組織体制とシステムの構築を進め、グローバル時代に耐えうる大学経営に努めてまいります。いずれも困難かつ重要な課題ですが、これらの解決なくして教育研究活動の充実、明治大学の永続的な発展はありません。山積した課題に真摯に向き合い、怯むことなく大改革を進めます。

連合駿台会の皆様におかれましても、明治大学が、前へ、世界へ、と踏み出す一年とするために、今後とも引き続き、母校・明治大学へのご支援、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

早いもので就任三回目の新年を迎えました。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年、本学は、大学院博士後期課程のグローバル・ガバナンス研究科を開設したほか、生田キャンパスには、最新鋭の設備を兼ね備えた第一校舎6号館を竣工するなど、教育研究環境の一層の充実に努めてまいりました。また、二年目を迎えた中野キャンパスは、文理融合のキャンパスとして、その活気は一段と増しております。

本学の昨年一年間の取り組みは、各方面から高い評価をいただきましたが、九月には「世界へ！MEIJI8000」学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた学生を育成―がスーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業に採択されました。本構想は、学生の主体的学びを確立する取り組みと、主体的学びを育むグローバル・キャンパスの二つの柱で構成されておりますが、その基盤を成すのは総合的教育改革であります。学長就任以来、検討を重ねてきた同改革は、柔軟な時間割と学事暦を導入することで、教育の質

的転換と国際通用性をより高度なものとするものであります。学内審議の結果、大筋で合意を得られ、順次、導入を目指しております。世界的な大学間競争が激しさを増す中でSGU事業に採択されたことは、本学にとって大変重要な意義があることは間違いありません。日本の大学の国際化をリードし、海外のトップスクールと伍していくには、「明治の『教育力』の飛躍」とグローバル社会で活躍できる「未来開拓力」に優れた毎年八千名の卒業生を送り出していかなければなりません。そのためにも、SGU事業を弛むことなく推進するとともに、解決すべき課題をひとつずつクリアし、着実に「前へ」進んでいく所存です。

また、本学の質的向上には、研究面での飛躍も欠かせません。昨年は、中野キャンパスで展開する先端数理科学インスティテュートが、文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に本学機関としては初めて認定されたほか、科研費の内定金額の増加や複数の大型研究も獲得いたしました。日本経済新聞社が主

要大学を対象に行ったアンケート調査によると、企業から得た共同研究資金では第九位に入ると、本学の研究力は年々向上しております。本年も本学の礎である研究活動を着実に発展させ、教育との相乗的効果で、更なる高みを目指してまいります。

このような本学の動向は社会からも注目を集め、十月に開催したイベントでは、五百社近い企業の方々に足を運んでいただきました。本学の人材育成に対する高い評価であると同時に、今後への強い期待の表れでもあります。本年も「次代を拓き、世界へ発信する大学」として、更なる一歩を力強く踏み出す所存でございますが、真のグローバル人材の育成には、産学の連携が不可欠であります。これまでも増して、連合駿台会の皆様のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

結びにあたりまして、連合駿台会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

明治大学
学長
福宮賢一



謹賀新年



T C I株式会社

代表取締役

〒150-0011 渋谷区東二一七七一〇
TEL 五四六七〇〇三六
FAX 五四六七九三四七
E-mail:shojak2@tc-i.co.jp

あぐつ 昭二

足立会計事務所

所長・
税理士 足立吉松

〒410-0832 静岡県沼津市御幸町二一三〇
TEL 〇五五―九三二―六三九一
FAX 〇五五―九三四―〇二二五

株式会社エービーコーポレーション

代表取締役

〒980-0004 仙台市青葉区宮町三一八―三三三
TEL 〇二二―二七―〇〇三三
FAX 〇二二―二五―一〇八一

阿部倫明

株式会社三井住友銀行

常務
執行役員

〒100-0005 千代田区丸の内一―一―二
TEL 四三三三二七九五

石井仁

税理士法人あい&ゆう税務会計事務所

代表社員
税理士 石橋良一

〒142-0042 品川区二葉二―二四―九一〇一
TEL 三七八三一―一七一
FAX 三七八三一―一七五

三八五流通株式会社

常務取締役

〒039-1189 青森県八戸市長苗代上中坪三五―一
TEL 〇一七八―二七―四一四一
FAX 〇一七八―二七―一五〇九

泉山和久

前田道路株式会社

代表取締役
社長

〒141-8665 品川区大崎一―一―一三
TEL 五四八七〇〇二
FAX 五四八七〇〇四一

磯 昭男

株式会社チユチュアンナ

代表取締役

〒545-0001 大阪市阿倍野区天王寺町北二―三―一
TEL 〇六一六七七三―一五四六
FAX 〇六一六七四―一九八六〇

上田利昭

連合駿台会 専務理事

上西紘治

〒244-0803 横浜市戸塚区平戸町七七五―一〇
TEL&FAX 〇四五―八二二―六四三
携帯電話 〇九〇―三三三―一四七三九

株式会社プラム社

代表取締役

〒179-0085 練馬区早宮三―七―四
FAX 三九九三―五三八一
TEL 三九九三―五三八一
ファミリエビルF

宇田川雄弘

株式会社藤枝江崎書店
株式会社藤枝江崎新聞店

代表取締役
社長

〒426-0025 静岡県藤枝市藤枝一―四―一二
TEL 〇五四―六四四―六〇六〇
FAX 〇五四―六四四―五二九〇

江崎友次郎

ペップ・メイツ株式会社

代表取締役

〒103-0011 中央区日本橋大伝馬町一四―一〇―四F
TEL 三六六三―一八八二七
FAX 三六六三―一八八二八

大前実之

安全と信頼の警備
タイヨー株式会社

最高顧問

〒124-0024 葛飾区新小岩一―五七―三
TEL 五六六二―一三三三一
FAX 五六六二―一三三三一

大村託現

株式会社アマダ

代表取締役
社長

〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田二〇〇
TEL 〇四三―九六一―一一一
FAX 〇四三―一九六一―三四〇七

岡本満夫

富士建物管理株式会社

代表取締役

〒190-0021 立川市羽衣町三―八―一一
TEL 〇四二―五二四―六五一
FAX 〇四二―五二四―六五一

長田宇功

株式会社聖和

代表取締役
社長

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島一―一八―一五
TEL 〇六一―六八一―五〇八号
FAX 〇六一―六八一―五〇八号
新大阪丸ビル一〇〇八号

小野寺弘三

株式会社カナエ
代表取締役
社長

金子圭太

〒105-0013 港区浜松町二一〇一〇二
カナエ本社ビル
TEL 三四三二一五四一〇
TEL 三四三七七六六六八
FAX 三四三七七六六六八

株式会社アクト・キャリアキープ

会長 荻部彰夫

〒103-0012 中央区日本橋堀留町一〇一〇一九
第一川端ビル三F
TEL 六八二六一六一六
TEL 六八二六一六一六
FAX 六八二六一六一六〇

金印株式会社

代表取締役
会長 小林一光

〒103-0012 名古屋市中区栄三一一八一一
ナディアパークビジネスセンタービル三F
TEL 〇五二一一三三八一七九一
TEL 〇五二一一三三八一七九一
FAX 〇五二一一三三八一七九七

小山税理士法人

代表社員 小山修

公認会計士 小山修平



〒342-0056 埼玉県吉川市大字平沼二六三
TEL 〇四八一九八二一〇三六〇
TEL 〇四八一九八二一〇三三九
FAX 〇四八一九八二一〇三三九

東神興業株式会社グループ

会長 根田哲雄
社長 根田吉雄

〒167-0043 杉並区上荻三一一九一一五
TEL 三三九五一五六九九
TEL 三三九五一五六九九

ベストンサービス株式会社

代表取締役 斉藤春夫

〒120-0025 足立区千住東二一四一三
TEL 三三八八八一一九三
TEL 三三八八八一一九三
FAX 三三八八八一一九七

明治大学マスコミクラブ

常任顧問 齊藤柳光

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町九四五
TEL 〇四八一六四四一〇〇八五
TEL 〇四八一六四四一〇〇八五
FAX 〇四八一六四四一〇〇三〇六

株式会社ザイナス

代表取締役社長 坂田英夫

〒103-0027 中央区日本橋三一一五一一三
三義ビル八F
TEL 三二七五一一〇八〇〇八
TEL 三二七五一一〇八〇〇八
FAX 三二七五一一〇八〇〇八
（株）明大サポート監査役

株式会社ネクスト

常勤監査役 佐藤健

〒108-0075 港区港南二一三一一一三
品川フロントビル
TEL 五七八三一三六九四
TEL 五七八三一三六九四
E:raizai@tokaiad@next-group.jp
オリックス(株)元専務取締役

株式会社シティ・ハウジング

代表取締役 佐藤仁

〒144-0034 大田区西糀谷四一二八一四
TEL 三七四二一七六〇七
TEL 三七四二一七六〇七
FAX 五七〇五一八〇九七



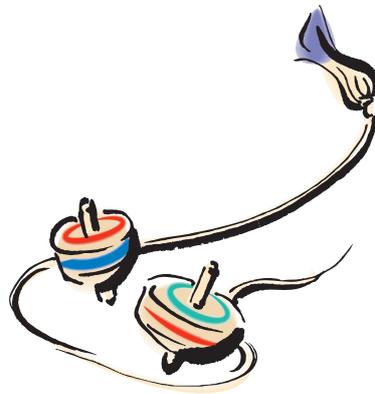
総合物流をはじめとする多彩なサービスを
「お客様のご満足」と「安全」をモットーに
提供し続ける会社、それがアサガミです



アサガミ株式会社

本社:東京都千代田区丸の内3-1-1
Tel (03) 6880-2200 fax (03) 6880-2230
http://www.asagami.co.jp/

<p>明治大学評議員・校友会副会長 辻嘉右工門</p> <p>〒916-0055 福井県鯖江市鯖江一〇一〇一五 TEL & FAX 〇七七八一五二一八八五五 明治大学政治経済学部講師</p>	<p>代表取締役 会長 谷 慈 義</p> <p>〒135-0004 江東区森下二一九一八 TEL 三六三二一八〇二九 FAX 三六三二一八〇七六</p>	<p>代表取締役 会長 舘林精二郎</p> <p>〒110-0016 台東区台東四一三二二一 TEL 五六八八〇一一一 FAX 五六八八〇一三九</p>	<p>代表取締役 社長 高橋郁夫</p> <p>〒150-0001 渋谷区神宮前一八一六 TEL 三四〇五二四〇〇一 FAX 三四七九一八〇一四</p> <p>学校法人明治大学評議員 時計ヘルト・貴金属製品製造 株式会社バンビ</p>	<p>創業昭和五十六年 東都ゴルフ株式会社東都ジャパン</p> <p>代表取締役 杉浦伸二</p> <p>〒103-0027 中央区日本橋三十八一〇 TEL 三二八一〇八〇一 FAX 三二八一〇八九〇</p>
<p>会長 長堀守弘</p> <p>〒110-8546 台東区上野一五一一三 TEL 三八三六一四七二三 FAX 三八三五〇八二五</p>	<p>代表取締役 社長 長瀬哲郎</p> <p>〒100-8285 千代田区丸の内一八一一 丸の内トラストタワーN館一六F TEL 五二一八一五三五〇(秘書) FAX 三二二八六一三二一</p>	<p>取締役会長 長崎清正</p> <p>〒733-8048 広島市西区商工センター二一七二七 TEL 〇八二二七六一四八〇九 FAX 〇八二二五〇一四八一〇</p>	<p>大学支援 委員長 中川敏洋</p> <p>〒273-0005 千葉県船橋市本町六一三三四四 TEL 〇九〇一四四一三一六七二三</p>	<p>徳丸織物株式会社</p> <p>代表取締役 徳丸平太郎</p> <p>〒335-0001 埼玉県蕨市北町三一五一四 TEL & FAX 〇四八一四四三二〇五〇</p>



船用照明器具・船用配線器具・船用信号器具・船用配電盤
ヘリコプタ着船援助器具・高耐水性照明器具
ISO 9001:2008認証工場

— 信頼と実績に応え、未来に挑戦する集団 —

 **大石電機工業株式会社**

代表取締役社長 **大石 哲也** 昭和63年工学部卒業

〒140-0011 東京都品川区東大井2-17-9

TEL 03-3761-2166 (代表) ・ FAX 03-3761-4851

<http://www.ohishi-denki.co.jp>

株式会社デイスコ

代表取締役社長 夏井文俊

〒12-8515 文京区後楽二一-一五-一
TEL 五八〇四-五五〇〇
FAX 五八〇四-五九一九

株式会社ナミキ

代表取締役会長 並木洋一

〒175-0094 板橋区成増三-一-二二-一
TEL 三九三九-〇〇二八
FAX 三九七五-〇〇五六

西山商事株式会社

代表取締役会長 西山武夫

〒201-0004 狛江市岩戸北四-一九-一-二
TEL 三四八〇-一四二〇
FAX 三四八〇-四三六五

つばさ法律事務所

弁護士 一宮 忠
弁護士 一宮 充子

〒101-0047 千代田区内神田一-三-一
(東京弁護士会所属)
TEL 三二九五-五二五八
FAX 三二九五-五二三八

学校法人明治大学

理事長 日高憲三

〒101-8301 千代田区神田駿河台一-一-
TEL 三一九六-四〇〇〇
FAX 三一九六-四三三八

メトロ電気株式会社

代表取締役会長 藤巻伴英

〒101-0063 千代田区神田淡路町一-一九-一四
TEL 三二五三-三〇三六
FAX 三二五五-三三九四

明治大学女子同総会

会長 大藤ヨシ子

〒263-0021 千葉市稲毛区轟町四-八-一〇
TEL 〇四三二-二五一-五七六一

弁護士

堀越 孝

本間美邦税理士事務所

所長 本間美邦

〒102-0083 千代田区麹町四-三-一五
TEL 三二六五-五一一六
FAX 三二六五-五一一七

NPO法人みなみ

理事 松崎優子

〒279-0011 千葉県浦安市美浜三-一九-一四
TEL 〇四七-三五一-六八六二
FAX 〇四七-三八一-五五〇六



『防水と屋上を総合的にプロデュースする』

総合防水材料メーカー

日新工業株式会社

〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号
TEL 03-3882-2424

代表取締役社長 相臺 公豊
専務取締役 相臺 志浩



ミズ太郎

株式会社内田洋行
顧問 向井眞一
〒104-8282 中央区新川二丁目四丁目七
TEL 三五五五-四〇〇一
FAX 三五五五-四六二〇

エフ株式会社
代表取締役 宮下隆
〒170-0005 豊島区南大塚三丁目三二丁目一〇
TEL 五九五〇-〇六六五
FAX 五九五〇-〇六六五

アズビル株式会社
執行役員 宮澤光晴
〒104-0002 品川区東品川四丁目二丁目一
TEL 六八二〇-一五〇〇

TOCキヤパシタ株式会社
代表取締役 丸山律夫
〒394-0035 長野県岡谷市天竜町三丁目二〇丁目三三
TEL 〇二六六-七五七五
FAX 〇二六六-七五八〇

株式会社松本商会
代表取締役 松本伸一郎
〒354-0021 埼玉県富士見市鶴馬三丁目六八
TEL 〇四九二-五二一〇
FAX 〇四九二-五二一〇

山崎製パン株式会社
副社長 山田憲典
〒101-8585 千代田区岩本町三丁目一〇丁目一
TEL 三八六四-三二一〇
FAX 三八六四-三二〇九

共同印刷株式会社
顧問 山口政廣
〒112-8501 文京区小石川四丁目一四丁目一二
TEL 三八一七-二二二二
FAX 三八一七-二二二〇

株式会社やまたけ
取締役 山口大介
〒123-0841 足立区西新井五丁目三五丁目一三
TEL 三八九九-三三七七

株式会社ヴィ・フランス
代表取締役 村上知義
〒134-0088 江戸川区西葛西六丁目一九丁目一六
TEL 五六七九-八四二一
FAX 五六七九-八四二二

株式会社ダイニチ
代表取締役 六井元一
〒279-002 千葉県浦安市北栄一丁目一六丁目三
DNプラザビル
TEL 〇四七三-五五四一
FAX 〇四七三-五五四二
<http://www.dainichi.co.jp>

洋日工業株式会社
代表取締役 渡邊洋三
〒359-0038 埼玉県所沢市北秋津七三九丁目六二
COZYレジデンス1F
TEL 〇四二〇〇八-二九八八
FAX 〇四二〇〇八-二九六六

金魚の吉田 株式会社ヨシダ
代表取締役 吉田信行
〒124-0023 葛飾区新小岩五丁目一四丁目七
TEL 三六九四-三七五二
FAX 三六九四-三七五三

あかつき税理士法人
公認会計士 税理士 吉田光一郎
〒110-0015 台東区東上野一丁目二五丁目三
小松和東上野ビル五〇二
TEL 三八三六-六八九一
FAX 三八三六-六八九三

株式会社日本金属工芸研究所
取締役会長 山田朝彦
〒113-0023 文京区向丘一丁目六丁目一二
TEL 三八二一-七七〇九
FAX 三八二一-〇〇〇三



寒中見舞いはがき 印刷承ります



株式会社 **マイプリント** 〒206-0025 東京都多摩市永山6-11-11
Tel 042-337-8111(代表) Fax 042-337-8121
<http://www.myprint.co.jp>

連合駿台会十一月例会

「現代社会における

心の伝わる手書きの良さ」

書道師範・日光観光大使 涼風花氏



連合駿台会平成二十六年十一月の例会を、十一月十九日（水）十八時より、明治大学「紫紺館」三階会議室で、涼風花氏をゲストスピーカーとして開催しました。

当日の講演の要旨は以下の通りです

*

私は七歳で書道を始め、十四歳で書道師範を取得し、その後ペン字師範資格も取得しました。現在ではイベントで書道パフォーマンスや商品ロゴの制作、企業内や自治体イベントでの美文字講座の開催、美文字本の出版などを行っています。本日は自己紹介も兼ね、まず

書道パフォーマンスをさせて頂きたいと思えます。

「智慧」という字を書く」

皆様がよくご覧になるのは、「知る」と「恵む」という字を用いた「知恵」だと思いますが、本日は「智（さと）る」とも読む「智慧」で書かせて頂きました。まずはこの字の成り立ちについてお話します。「智」という字には「矢」があつて「口」があります。これは、矢のように入ってきた情報を、的確にそのまま口にする、という意味です。今回書かせていただいたものには、下に「日」

があります。これは太陽のことを表しているのではなく、「日（いわ）く」の意味であり、「知」が情報を得てそのまま知ることに対し、「智」はその情報を自分の中で一度考え本質を見抜いて、自分の意見として言うという意味になります。「恵」はものを慈しむことであり、「智慧」とは知識の集積・分析から生まれる、考えたり工夫したりして何かを恵む、つくり出す力のことです。今日はOB会という一つの繋がりによる集まりなので、この「智慧」を活かすことについて講演したいと思えます。

私は、日々の活動を通じて、千利休の説いた禅語のように、人との繋がりの大切さも伝えていきたいと思っています。書道を始めたきっかけは、祖母から「お小遣いをあげる

から通いなさい」と言われたちよつと不純な動機でしたが（笑）、師事した先生が素敵な女性だったので、将来は自分もそのようになりたいという思いから続けていくことができました。私は日光の、しかも近くのコンビニまで車で三十分もかかるという田舎で育ったので、東京で活動するには、まず反対する両親を口説く必要があります、東京でも自立できるよう、歯科衛生士の資格を取って上京しました。そのため、専門学校に通っていた二年間、歯科衛生士として働いていた数年間は、書道の道から離れていました。

その後書道家として活動を始めてから、メールやSNSなど、活字が増えていく時代だからこそ、手書きならではの温かみや特別感で、感謝の気持ちがいよりの伝わることを見直されてきて、若い人や外国人に「書」に親しむ方が増えてきているのかなと思いました。テレビなどでも、漢字の正しい書き順や綺麗に文字を書くコツなどを書くコーナーも出て、私も出演させて頂いたこともあります。また高校生の書道部を取り上げた『書道ガールズ』という映画もでき、先日、イベントで一緒に過ごした高校書道部には、何十人も部員がいて驚きました。私が高校生の時は、五人くらいしかいなかった記憶があるので、こんなに多くの若い方に興味を持ってもらえるようになったのかと嬉しく思いました。ただ

私は、書道部ではなく、茶道部に所属していたのですが……。

話は漢字の話に戻って、禅語を使ってきたら文字を書くコツについて、お話しさせていただきますと思います。

〈四つの禅語を書く〉

まず「三人同行必有一智」という禅語は、「三人寄れば文殊の知と恵」という言葉に似ていますが、意味は違って、仲間が三人集まれば、必ずその中に自分の師と呼べる者がいるということを意味します。自分の周りには無能な人ばかりだと思っても、中には意外な趣味や才能を持っていて、将来、大成を取める人物がいるかもしれません。また自分は取り柄もなく平々凡々な人間だと思っても、自分の一言で他人の将来を劇的に変えることができるかもしれない。人それぞれ欠点もあり、そのほうが目につきやすいですが、人は案外奥深いもので、表面だけではなくすべてを判断することはできません。自分が知っているその人の顔は、ごく一部の側面しか過ぎず、自分と同じ人間は一人もいないのだから、違う意見を持った違う個性の人は、お互いに切磋琢磨しながら成長しあえる貴重な宝だと思います。どんな人からでも学ぶことができる人こそが、大きく成長できる人なのではないかとも思っています。皆様はこのような集いで出会える人がいるというこ

とは、「一智」が十智にも二十智にもなつて、大きな力にすることができると、素敵なことだと思います。

では早速、この文字を解説します。まず文字には、美しく書くためのポイントが三つあります。一つ目は、右上がりを書くという点。中国の名筆と言われる古典を調べると、大体右上がり六度だ

という点です。二つ目は、右上がりですべて書いてしまうとグラグラして落ち着かない感じになるの



で、右下は少し下げると書くということ。三つ目は、重複した横線・縦線がある場合は、等間隔に書くということ。この三つのポイントを守っていたら、ほとんどの文字がきれいに見えるので、試してみてください。たらしめたいと思います。

〈美しく書くポイントを個々に解説する〉

次の「我逢人」「一期一会」「一行三昧」もすべて禅語で書かせていただきました。「我

逢人」と「一期一会」というのは意味が似ていて、前者が人と人が出逢うことを大切に、そしてその時間と空間も大事にして、それぞれが学び合えるような関係でいたいということ、後者は一つひとつの出会いを大切にということ。二つ目は、「一行三昧」の三昧は、現代では一つのことにはばかり耽っている状態を指しますが、本来はヨガや瞑想の世界でも使われる言葉で、修行にはいくつもの段階があつて、その重要な三つの段階を示しているそうです。日常的に使われる、ゴルフ三昧や釣り三昧などで使われている意味とは違い、一つのことだけに専念し没頭していることを表しています。

〈美しく書くポイントを個々に解説する〉

ここまで、文字をきれいに書くコツなどをお話しさせていただきました。「手書き」については、印刷文字の中にも手書き文字が入っていたり、読みやすい手書き文字が入っていると、つい読んでしまうものです。定型文を印刷しただけのものより、愛情を感じたりする。一言添えてあげるだけで、思いを伝え、気持ちを伝えるために時間を使ってくれていると感じ、喜んでもらえると思います。そんな手書きを大切にもらえたら、人との繋がりがよくなって、大きなことを成し遂げる「智恵」にも繋がってくると思います。イベントなどで海外の方に書を差し上げる

と、大変喜んでいただけたり、最近は若い人を中心に、スマホとかパソコンが普及し、手書きに触れる機会が少なくなっているせいも、逆に手書きに興味を持ってくださる人が増えています。今後も今までのような活動を続け、私自身も勉強を続けながら、よりきれいな手書き文字と、よりきれいな日本語を広めていけることができたら幸せだと思っております。

【講師略歴】

涼風花(りょうふう・ふうか)

一九八五年、栃木県日光市に生まれる。七歳から書道を始め、十四歳で書道師範資格を取得し硬筆資格も持つ。

親を心配させまいと手に職を持つ為に歯科衛生士の資格も持ち、二十二歳で東京。歯科衛生士を続けながらも二〇一〇年「美人すぎる書道家」として新聞に取り上げられ、アメリカプロダクションのアクセスは月間二十万を維持し続けている。

早くも著書として、『美の書道』(日東書院)、『20日で驚くほど上達、美文字練習帳』(ブティック社)、『小学校で習ったはずなのに間違いやすい漢字の書き順』(二見書房)があり、テレビ、新聞、雑誌など各メディアにて精力的に手書きの良さを広める他、新製品発表会や企業イベント等での書道パフォーマンス、美文字講座が人気であり、商品ロゴや番組タイトルなども手掛けている。

◆広報委員会からの「案内」(理事会議事録)

日時：平成二十六年十一月二十一日(水)十七時
場所：明治大学「紫紺館」(二F会議室)

○新推薦会員承認の件

大原組織・会員増強委員長から、佐藤商事(株)の代表取締役社長の永瀬哲郎氏を委員会で承認したとの報告があり、全員異議なく承認された。

○各委員長よりの報告事項

〈総務・事業委員会 河村副委員長〉

※木村委員長が出席されているが、運営委員会に参加していた河村副委員長が報告

十月八日に行われた「第三回ビジネス勉強会」は、当会の山田憲典副会長(山崎製パン(株)副社長・(株)不二家会長)に講師をお願いしたが、参加者が八十人を越える盛大な会となった。十一月十四日には、木村委員長の尽力で、「第六回オーブンゴルフコンペ」を、千葉県・キングフィールズゴルフクラブで開催。

今後の例会以外の予定としては、「新入会員歓迎会」は、来年二月十八日、運営委員会終了後に行うことにした。「バス旅行」は、当初三月七日を予定していたが、大学校友会の行事と重なるため、十四日(土)に変更した。行き先は世界遺産・富岡製糸場で、最大

は八十名・バス二台を確保し、早めに案内を出して参加を促す予定である。「第四回ビジネス勉強会」は、四月二十二日、先般、当会に入会された山本良一氏(株)J・フロントリテイリング社長)に講師をお願いしている。

〈広報委員会 齋藤委員長〉

恒例になっている、会報新年号の名刺広告には是非ご協力いただきたい。昨年は会社のPRスペースも設けたが、基本的には会員の親睦のために行う方が望ましいという意見が運営委員会でも出された。名刺広告の目標は八十名としており、特に新入会員の方には自己PRも兼ねた掲載も考慮中。来年は、時代の要請も鑑み、メールリングリスト作成のために、メールアドレスの確認もしていきたい。

〈大学支援委員会 中川委員長〉

連合駿台会学術賞・学術奨励賞の選考には昨年からおブザーバーとして参加し始めたが、今年度は十一月十三日に上西専務理事も含め、三名で出席した。結果は学術賞二名、学術奨励賞一名で、来春一月二十一日に開催される駿台懇話会で表彰させていただく。産業共同就業力養成講座(キャリア教育支援)に関しては、来年度からは商学部に加え、経営学部も参画する予定になっている。

本日、「産学共同就業力育成シンポジウム」が開催されているが、これには明治大学以外の大学、企業、全国の高校の先生などが参加

している。秋期寄付講座は、明日十一月二十日に、当会会員の栗原権右衛門氏（日本電子（株）社長）に「チャンスのボールは必ず来る」というテーマでお話ししたくので、是非ご参加いただきたい（両方ともすでに終了）。

〈組織・会員増強委員会 大原委員長〉

会員の例会出席率をアップさせるための一助として、今回の例会から卒業学部別にテーブルを設けてみた。会員増強に関しては、大学からもらうデータについてはフォローしているが、それだけでは足りないのが、九月に発売された『役員四季報』に基づいて、二〇一三年・二〇一四年に役員に就任された方を絞ってみたが、それでも総勢二百数十名になるので、毎月少しずつ手分けをして勧誘を進めていきたいと考えている。

これに関して次のような意見があった。
・会員増強に関しては、委員会が苦勞されていると思うが、知らない人に対してスクラッチからアプローチするやり方では、大変ご苦勞が多いだろう。一番早いのは、会員の紹介があることだと思うので、ここにいるメンバーには、できるだけ候補になるような方を推薦してもらえたらと思う。

〈財務委員会 谷委員長〉

当会は、以前は年に一回の決算報告だったが、昨年からは四半期ごとに決算しており、今回は九月末における中間決算をご報告す

る。「平成二十五年度中間収支計算書」と比べると、「収入の部」では、年会費収入が約百万円、納付率も昨年の八五・六％から八八・一％と、二・五ポイントの増となっている。問題点としては、納入予定者数の中で、新入会員の納付ベース数が、昨年は十九名であったのに対し、今年は十二名に減ったことである。組織・会員増強委員会でも、新入会員の勧誘に力を入れられるとのことだが、皆様のご協力をお願いしたい。「支出の部」では、総務費は昨年とほぼ同じ、事業委員会費では、総務・事業委員会費に、未払金として九月例会費が含まれており、大学支援委員会費には、広報委員会マターから戻った、御茶ノ水JAZZ祭、ホームカミングデー、前倒しで支払った寄附講座費などが含まれている。いずれも四〇％台の支出で推移しており、「当期支出合計」は昨年より百七十万円ほど多くなった。

〈上西専務理事〉

中川大学支援委員長からも報告があったが、学術賞・学術奨励賞の選考委員会に初めて出席させていただいて、当会の意見も徐々に反映されていると感じた。ただ今回の応募は全部で五件しかなく、しかもそれを人文・社会・自然の三分野に分けている。このように分けることなく、全体的に見るという選考方法にはならないのか、また当会としては、

もっと若手研究者を多く表彰したいという意見も出しているが、教授間の力関係などもあるようだ。今回も三〇歳代は二人のうち一人が学術奨励賞（三十歳の女性）に選ばれ、六十歳前後の三人の方のうち二人が学術賞に選ばれた。当会の大きな柱であるこの賞が、もっとステータスの上がる賞になることを、今後とも協議していきたいと思う。

以上

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。（敬称略・到着順）



まきの
榎野 泰

昭和四十九年・工学部卒

(株)きんでん

執行役員情報通信部長

神奈川県横浜市在住



ながせ
永瀬 哲郎

昭和五十七年・法学部卒

佐藤商事(株)・代表取締役社長

千葉県野田市在住

◆訃報

会員の中西幹育氏（昭和三十五年・工学部卒、(株)事業創造研究所代表取締役社長）が、平成二十六年十一月十一日に逝去されま

した。享年七十六歳。
ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆明大ニユース

●第四十七回衆議院総選挙

明大関係者十一人が当選

安倍晋三首相の経済政策「アベノミクス」の是非などを争点とする、第四十七回衆議院議員総選挙が十二月十四日に投票された。投票率は小選挙区が五・六六%、比例代表が五二・六五%と、いずれも二〇一二年の前回総選挙を六・六六ポイント下回り、戦後最低を更新した。

明治大学出身者は、中退を含め十一人(前回十二人)が当選した。いずれも現職で、内訳は小選挙区八人、比例代表が三人。当選者の略歴等は次の通り。年齢は投票日現在の満年齢、丸付き数字は当選回数、年表示は西暦、敬称略。

小選挙区

井野俊郎(いの・としろう)

三十四歳・自民現②(群馬2区)

二〇〇三年法学部卒。党青年局長

笹川博義(ささがわ・ひろよし)

四十八歳・自民現②(群馬3区)

政経学部中退。党商工副委員長

新藤義孝(しんどう・よしとか)

五十六歳・自民前⑥(埼玉2区)
一九八〇年文学部卒。元総務相

渡辺博道(わたなべ・ひろみち)

六十四歳・自民現⑥(千葉6区)

一九七六年法学研究科修了。元経産副大臣

櫻田義孝(さくらだ・よしとか)

六十四歳・自民現⑥(千葉8区)

一九七四年商学部卒。元文科副大臣

萩生田光一(はぎうだ・こういち)

五十一歳・自民現④(東京24区)

一九八七年商学部卒。党総裁特別補佐

北村茂男(きたむら・しげお)

六十九歳・自民現④(石川3区)

一九六八年経営学部卒。環境副大臣

谷 公一(たに・こういち)

六十二歳・自民現⑤(兵庫5区)

一九七五年政治経済学部卒。復興相補佐官

比例区

松本文明(まつもと・ふみあき)

六十五歳・自民現③(東京)

一九七一年政経学部卒。元総務政務官

漆原良夫(うるしばら・よしお)

七十歳・公明現⑦(北陸信越)

一九六七年法学部卒。党中央幹事会長

宮崎政久(みやざき・まさひさ)

四十九歳・自民現②(九州)

一九八九年法学部卒。党法務副部長

●秋の叙勲・褒章

政府は十一月三日、二〇一四年秋の叙勲・褒章などの受章者を発表した。

各県校友支部等を通じて十二月九日まで報告された明大関係者の受章者は次のとおり。(年齢は受章時)

▽旭日中綬章 〓石川道政氏(元美濃市長。一九六三年商学部卒・七十四歳)

▽旭日小綬章 〓尾関卓司氏(元社岐阜県トラック協会会長。一九五八年経営学部卒・七十八歳)、齊藤慎一氏(滑川商工会議所会頭。一九六五年政経学部卒・七十二歳)、小林多門(元東京都議会議員、元衆議院議員。一九六九年政経学部卒・七十一歳)

▽瑞宝小綬章 〓酒巻弘英氏(元埼玉県総務部長。一九六二年法学部卒・七十四歳)、藤本和慶氏(元(独)国立印刷局小田原工場長。一九六八年政経学部卒・七十歳)

▽黄綬褒章 〓岡崎逸水氏(元福井日産自動車(株)会長。一九五七年商学部卒・八十歳)

▽藍綬褒章 〓仙浪博一氏(保護司。一九七四年政経学部卒・六十二歳)

▽瑞宝単光章 〓長澤薫氏(元警視庁警視。一九六七年商学部卒・七十一歳)

●文科省「女性研究者研究活動支援事業」

明治大学の取り組みが(一般型)に採択

文科科学省が大学や研究機関を対象に公

募した平成二十六年科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に、明治大学の取り組みがこのほど採択された。支援期間は三年間で、支援額は年間最大二千二百万円。

この事業は、女性研究者が能力を最大限発揮できるよう、ライフイベント（出産・子育て・介護など）とワーク・ライフ・バランス（研究と生活との調和）に配慮した研究環境の整備などの取り組みを文部科学省が支援するもの。「一般型」には十六機関からの申請があり、本学を含めた六機関が採択を受けた。

●理工学部

創設七〇周年記念式典・記念講演

理工学部は十一月一日、「もっと前へ、さらに世界へ」理解から創造へ」と題する創設七〇周年記念式典・記念講演を駿河台キャンパス・アカデミーホールで挙行。教職員や卒業生らが多数出席する中、学部のこれまでの歩みを振り返るとともに、さらなる飛躍に向けた新たな門出を盛大に祝した。

●情報コミュニケーション学部

創設一〇周年記念シンポジウム

情報コミュニケーション学部は十一月十五日、学部創設一〇周年を記念したシンポジウム「情報コミュニケーション学部の原点と

現点、そしてこれから」を駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催。学識者と教員、卒業生と現役学生によるパネルディスカッションが行われ、この十年間の歩みを振り返りながら学部の未来を探った。

●商学部

創設一一〇周年記念特別企画「留学・異文化・国際化?! 留学経験者座談会」

商学部は十月二十一日、国際交流フォーラム「留学・異文化・国際化?! 留学経験者座談会」を和泉キャンパス・図書館ホールで行った。このフォーラムは、海外に目を向け、広い視野で日本を見られる人材の育成を目的に毎年行われており、今回が十一回目。学部創設一一〇周年記念の特別企画とされた今回は、商学部独自の留学プログラムを利用して短期留学した明大生と、現在、明治大学に留学している海外からの留学生が登壇し、「国際化とは何か」「国際化に必要とされるもの」をテーマに座談会を行った。会場には留学を検討中の商学部生をはじめ、国際交流に関心を寄せる約百人が来場し、留学経験者たちが語る体験談や考えに耳を傾けた。

●グローバル・ビジネス研究科

開設一〇周年記念シンポジウム

専門職大学院グローバル・ビジネス研究

科（MBS）は十一月三日、開設一〇周年記念シンポジウムを駿河台キャンパス・リバティホールで開催した。

冒頭のあいさつで、青井倫一研究科長は「今後、MBSはファミリービジネス（中小企業経営）やスタートアップビジネス（起業）をキーワードとした新たなカリキュラムを構築し、国際レベルのビジネススクールに成長していく。このシンポジウムが、その第一歩となる」と、力強く今後の抱負を語った。

●第百回「全国図書館大会」を明大で開催

公益社団法人日本図書館協会主催の第百回「全国図書館大会」が十月三十一日～十一月一日の二日間、駿河台キャンパスを会場に開催され、和泉図書館（和泉キャンパス）がこのほど受賞した第三十回「日本図書館協会建築賞」の表彰式も行われた。

日本図書館協会は、全国の公共・大学・学校・専門図書館などが会員の日本を代表する図書館組織で、個人・施設を合わせた会員数は約七千。全国図書館大会は千九百六（明治三十九）年から全国各地で開催されており、本学は記念すべき第百回の会場となった。

●連合駿台会寄付講座

日本電子・栗原社長が講演

「チャンスのボールは必ず来る」

リバティアアカデミーは十一月二十日、「チャンスのボールは必ず来る」イノベーションをもたらずYOKOGUSHIイズム」と題する連合駿台会寄付講座を駿河台キャンパス・グローバルホールにて開催。高い技術力を誇るグローバル企業として注目される日本電子の代表取締役社長・栗原権右衛門氏（明治大学校友・連合駿台会会員）が講演を行った。

●OB社長

▽中央運輸（陸運業） 〓赤澤善博氏（一九八八年商学部卒・四十九歳）
▽エイツーヘルスケア（医薬品） 〓香取忠氏（一九九一年法学部卒・四十五歳）

●経理研究所

公認会計士試験現役合格者二十七人表彰

金融庁の公認会計士・監査審査会は十一月十四日、二〇一四年の公認会計士試験合格者を発表した。今回の試験の最終合格者数は千百二人（前年千七百七十八人）で、合格率は一〇・一％（同八・九％）。明治大学関係者の合格者は四十九人だった（十二月十一日現在、明治大学経理研究所調べ）。

この発表を受け、経理研究所は十二月十二日、現役合格を果たした学生を対象とした報奨金授与式を駿河台キャンパス・リバティ

タワーの矢代操ホールで執り行った。今回報奨金を授与された現役学生は、商学部十四人、政治経済学部六人、経営学部五人、専門職大学院会計専門職研究科二人の計二十七人。このうち、公認会計士養成機関である経理研究所特別会計研究室に所属する学生は二十三人だった。

●世界に広がる協定校

四十一カ国・地域二百四十二大学と協定

明治大学は、国立交通大学と大学間協力協定を、成均館大学芸術学部・芸術学研究科と部局間協力協定を新たに締結した。協定校は四十一の国と地域で、二百四十二大学となった（十一月十七日現在）。

●法科大学院

開設一〇周年記念シンポジウム

法科大学院は十一月二十二日、「法科大学院十年の歩みと未来への展望」と題する開設一〇周年記念シンポジウムを、駿河台キャンパス・リバティタワーにて開催した。

一〇周年記念行事実行委員長の中山幸二教授の司会のもと、シンポジウムは二部構成で進行。第一部では、元最高裁判所長官の島田仁郎特別招聘教授と、村上一博教授（法学部）がそれぞれ一〇周年記念講演を行った。第二部では「専門法曹養成の展望」をテーマ

に、四センター長の講演、パネルディスカッションなどが行われた。

●山形県天童市で

「宮城浩蔵賞」授与式と「理科教育事業」

「天童市教育の日・天童市生涯学習フェスティバル二〇一四」が十一月二十二日、山形県天童市の天童市市民プラザで開催された。フェスティバル開会行事では、「宮城浩蔵賞」の授与式が行われ、明治大学から伊藤光副学長、校友会山形地域支部から中村恒一支部長が出席した。天童市と本学は、創立者の一人・宮城浩蔵の出身地であることが縁で、連携協力に関する協定を二〇一〇年十一月に締結。さまざまな連携事業を実施している。

●福井県鯖江市で講演会

「矢代操と明治大学」を開催

明治大学は十一月二十三日、福井県鯖江市との連携の一環で、「矢代操と明治大学」と題する講演会を同市の鯖江公民館にて開催した。鯖江市と本学は、創立者の一人である矢代操の出身地であることが縁で、二〇一一年に連携協力に関する協定を締結。その後、さまざまな連携事業を展開している。

●明大で産学協同就業力育成シンポジウム

主体性と応用力を持った学生を育てるた

め、新入生を対象に産学一体で実践講座を行う一般社団法人 Future Skills Project 研究会（理事長：安西祐一郎日本学術振興会理事長・慶應義塾学事顧問）は十一月十九日、駿河台キャンパス・アカデミーホールで「産学協同就業力育成シンポジウム二〇一四」を開催した。

同プロジェクトには現在、約四十の企業と二十の大学が参加。人材育成を通じて日本の未来を創る取り組みは、その成果とともに日本の高等教育の現場に広がりつつある。

◆駿台トピックス

●第六回オープンゴルフコンペを開催

第六回目になるゴルフコンペが、十一月十四日、千葉県キングフィールズゴルフクラブで開催されました。新ペリア方式による成績結果は、優勝はベストグロスで回った室井恵明会員（昭和六十二年・文卒）、準優勝は初参加の桜井保彦会員（昭和五十六年・商卒）、第三位は杉浦伸二会員（昭和四十八年・政経卒）。



◆十一月例会出席者

青木孝、青木幹則、秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、浅倉晴司、安達明正、阿部倫明、池田一義、池田勝也、石川かおり、石川均、石原道勝、伊東正博、上西紘治、海野美津雄、大石哲也、大原幸男、大前実之、大村託現、小國博明、小野寺弘三、笠井正弘、勝俣正義、荏部彰夫、河村博、木野幸士、木下重次郎、木村健一、清野明男、日下豊顕、沓掛英二、小柴和弘、小島清治、小谷野正道、小山修、根田哲雄、根田吉雄、斉藤春夫、斉藤弘之、齋藤柳光、坂田貞夫、坂田政一、桜井保彦、笹田学、佐藤和正、佐藤健、佐藤仁、佐藤寛、眞田瞳、澤野太嘉嗣、椎名茂樹、甚野捷、杉浦伸二、鈴木紘一、鈴木隆志、関和夫、高澤徹、谷慈義、谷原誠、田村駿、天童美徳（代理）、当山明彦、徳丸平太郎、富流水孝二、中川敏洋、長堀守弘、中村欣治、中村豊、並木洋一、西尾勝治、橋口隆、蓮池信之、長谷川進一、馬場範夫、林威樹、原田榮、福田和彦、福山紘太郎、富士豊、同ご友人、藤巻伴英、堀越孝、前川一郎、同ご友人、益子哲郎、松崎優子、宮下隆、宮本浩二、向井眞一、村岡健、村瀬尚男、同令夫人、室井恵明、山上雅隆、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、山田勝、結城康郎、義江邦夫、渡邊洋三

【編集後記】

年賀状を喪中で失礼した新春。旅立った母校の大先輩高倉健さんの著書「あなたに褒められたくて」を手にあれこれ感懐にふけた。

高倉健こと本名・小田剛一さんのルーツが鎌倉幕府の北条篤時であったことは、まず感慨深かった。

一三三三年、一門は執権高時や篤時を含む八百七十余人が新田義貞に攻められ自害した。高倉さんは、奇しくも先輩の萬屋錦之介さんの勧めで鎌倉にお墓を決めた時に最期の地・宝戒寺を訪れた。そして、「怒りの火のようなものが身体からポワツと発した」と書いている。そこに、併せ持つもののふと侠客のイメージが重なった。さらに、祖父が話していた、関東武士の端くれだったというわが家のルーツも重なって、手前勝手な想いも巡った。

「兆司さんへの花」のくだりはさらに感慨深い。一九九〇年十月十三日、高倉さんは理髪店のテレビで大投手村田兆司の引退試合を観ていた。互いの存在は知ってはいっても会ったことはない。それなのに、その艱難辛苦の人生に感動し、ねぎらいのメッセージを書き花束を買って、自ら三時間も探し回って村田邸を訪ねる。あいにく留守だったのでそと置いて帰ったという。自らは「性急」と評したその行動は、義と情に熱いその人柄そのものだ。しかも、高倉さんはご存じなかっただろうが、村田さんの不在は新聞社から専属評論家交渉を受けていたためだ。実は、その交渉役が私だった。不思議な縁を四半世紀をへて初めて知る。

〈往く道は精進にして 忍びて終わり悔いなし〉
高倉健さんをあらためて敬弔し、妄言多謝。

（齋藤 柳光）